安保支持6・21
良識派決起大会

この激動する世界の中で 日本の生きる道

―それは「安保暫定維持」―

○日本は一瞬にして占領される

写真の潜水艦は、ソヴィエトのミサイル潜水艦E型です。ソヴィエトは、全海軍兵力の三分の一を極東海域に配備しています。その中に、写真のようなミサイル潜水艦が約三十隻あり、その三分の一近くが原子力潜水艦であると言われています。ソヴィエトは、その他百七十五隻にものぼる膨大な量の潜水艦を日本海に泳がせています。勿論、潜水艦だけではなく、重巡洋艦四、ミサイル駆逐艦六～七、ミサイル高速艇五十等圧倒的な海軍力をもって、日本を窺かしているのです。

そして、勿論、空軍も陸軍も、日本の自衛隊のそれとは比較にならない程、圧倒的な量を配置しているのです。空軍力はとくに注目しなければならないもので、超音速のスホーイSV7フィッターや、ヤコブレフYAK28ファイバー等の〝新鋭機〟を五百～七百も持ち、それらの行動半径は優に、北海道全土を覆い尽してしまいます。その他、アメリカまで楽に飛ぶことの出来る戦略爆撃機、戦闘機に負けないマッハ二のスピードを持つブラインダー等の戦術爆撃機を五百機配備しているのです。中共の軍事力は、何といっても二百五十万の陸軍が中心であり、それに三千万の保安部隊が後についています。空軍二千三百機のうち戦闘機が二千機で、非常に優秀な性能を持つミグ21も量産に入ったと言われているのです。

しかし、中共の軍事力の最大の脅威は二十〝メガトン〟の実戦用原爆百発と、十数発の水爆であり、それを運ぶミサイルも既に完成しているのです。その他、北朝鮮軍の四十八万の陸軍や約千台の戦車、装甲車も加えると、アジアにおける共産陣営の日本を取り囲む軍事力は、一瞬にして日本を占領する力をもっているのです。

○日本を狙うソ連の偵察行動

新聞やテレビは、プエブロ号や、アメリカの偵察機EC121などの事件を大々的に取り扱い、あたかも、アメリカで一方的に、ソ連や中共に対して挑発行為を行なっているかのように報道しました。

しかし、ソヴィエトは連日のように偵察機を日本付近に飛来させていますし、ソ連の情報収集船二千隻の中で、日本近海に、大漁船団の型で常に出没しています。昨年秋などは、北海道から三陸にかけて、一万〝トン〟級の母船を中心にした大漁船団が約二ヵ月も居座り、日本を徹底的に偵察した上、暴力的な乱獲をし漁場を荒し、わが国の零細漁民を苦しめました。

このようなソヴィエトの行動は新聞に掲載されないし、掲載されても、ほんのわずかなので、一般市民や学生が知らないだけなのです。

○安保条約があると危険なのか？

日本の平和勢力だと自認したり、そう言われている人達は、安保条約があると日本が戦争に巻き込まれると言っています。しかし、現在の国際政治の本質は、〝力の闘争〟であり、その証拠には、戦後二十四年間に四十八回もの戦争が起こっています。この事実は、軍事力による解決方策が未だ未だ圧倒的にとられているということです。そして、又、昨年のあのチェコ事件でも、ソヴィエトの軍事力を怖れてどこの国も手出しが出来なかったし、国連も、ソヴィエトの拒否権行使で全くお手上げでした。そのような意味から、我が国の憲法の前文の「平和を愛する諸国民の

（裏に続く）

対馬海峡を北上するソ連ミサイル潜水艦E2型
（この潜水艦は浮上したところを海上自衛隊の哨戒機によって発見された）

安保支持良識派決起大会に参加しよう！

時　六月二十一日（土）午後二時四時
所　読売ホール（国電有楽町駅前そごう会館7階）
○入場無料　青年・学生他多くの参加を求めます

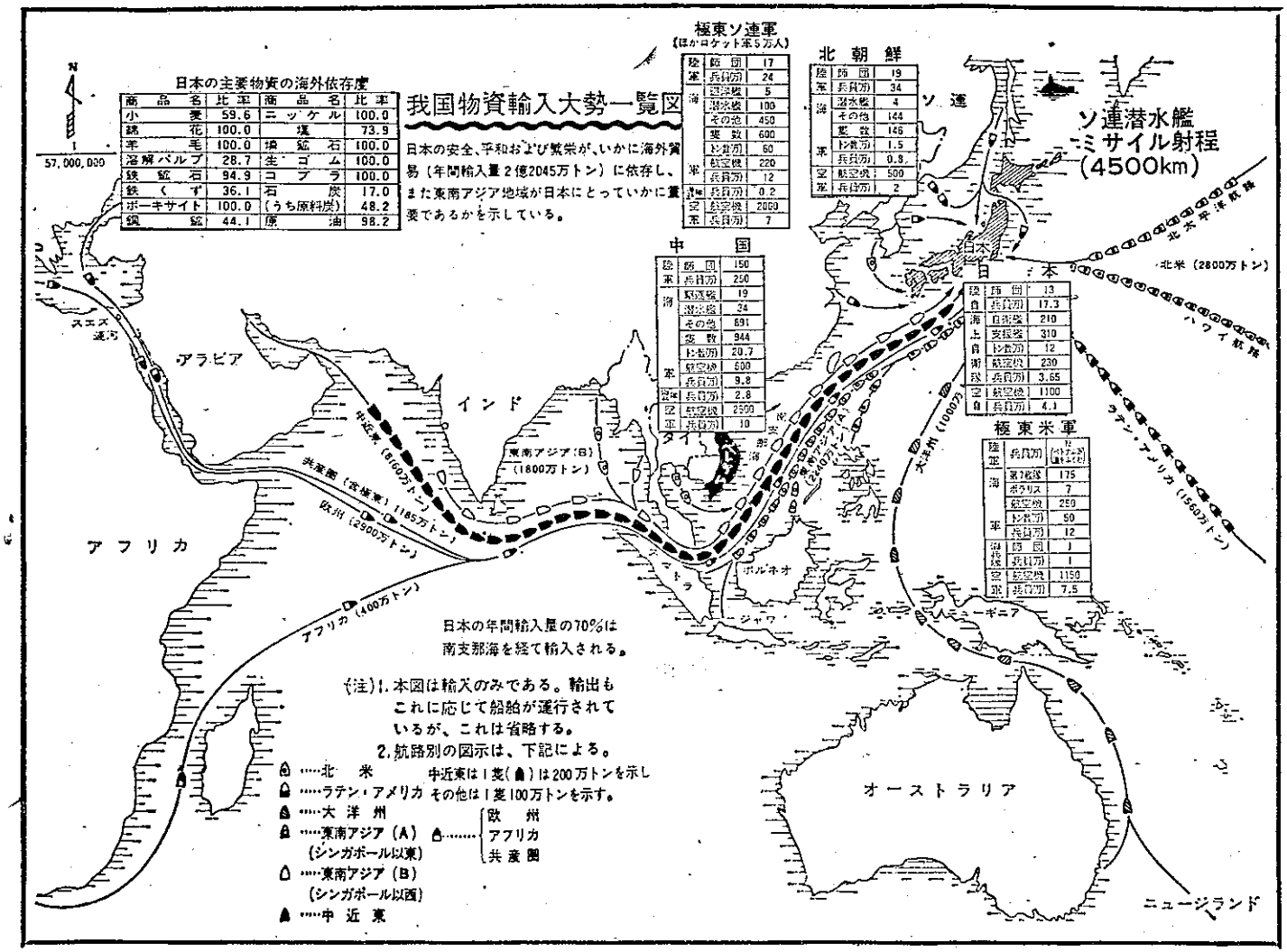
生長の家学生会全国総連合主催

公正と信義に信頼し、我が国の安全と生存を保持しよう」などという考え方は、実に非現実的であると言わねばなりません。何故、こんな文章が生まれたのでしょう。無理もありません、日本を弱体化する為に、大東亜戦争終結後、日本に進駐した占領軍が、暴力的に、強制的に作って押しつけたのですから……。しかし、ソヴィエトとアメリカの仲が悪くなりそんな無防備国の日本の安全が憲法によって保障されないと判ったので、そのために安保条約が出来たのです。そして、安保があれば危険だという人には、次のように言わねばなりません。一九五〇年の朝鮮戦争の原因は、(一)昭和二十五年一月、アチソン国務長官が、韓国の防衛に力を入れないと見られる声明を出したこと。(二)韓国と北朝鮮の軍事力の差が余りにも開きすぎていたことであり、韓国が他国と安保条約を結んでいたからではないのです。

○中立か、自由主義陣営か、共産主義陣営か、

毛沢東は、「どっちつかずの、中立ということは出来ないだろうか？それは夢物語である。…中立とは人をごまかす言葉にすぎない」と言っていますし、又、「暴力革命唯一論の毛沢東主義は、普遍的真理である」とも言っています。日本のような高い生産力を持つ国は、無防備で中立でいることなど出来ないのです。

それなら、今はどちらかのグループと共に生きていく以外に、現実策はありません。四七〇〇万人を擁するソヴィエトや、又、四七九四万人を擁した中共（フランスの共産主義研究家、スザンヌ、ラバン女史の発表）につくか、日米安保条約を中心にして、自由主義国側と生きるかなのです。日本を守る道＝それは、現在では日米安保条約暫定維持以外にはないのです。



この図は、日本の重要産業を支える原料の海外依存度の高さを表わしています。もし、この輸入経路がどこかの国に封鎖されたらどうなるでしょう。日米安保条約は、そのような脅威からの防衛の役割も果たしています。